

氏名	瀧田浩平	部署	看護学科	職名	助教
研究分野	小児看護学				
学位	修士(看護学)				
学歴	2007年秋田大学医学部保健学科看護学専攻、2014年東京慈恵会医科大学大学院医学研究科看護学専攻				
経歴	2014年東京慈恵会医科大学医学部看護学科助教、2019年埼玉県立大学保健医療福祉学部看護学科助教				
所属学会（役職）	日本小児看護学会、日本看護科学学会、日本育療学会、日本看護倫理学会、SPU学会				

【2023年度実績】

1. 研究業績						
(1) 著作						
	著作の名称	単・共	ISBN	発行所、全ページ数	著者、編者名	発行等年月
1	小児看護技術演習テキスト 子どもの権利擁護の実践をめざして 教員用指導書	共著	あり	へるす出版、195頁	監修：濱中喜代、編集：高橋衣 執筆：高橋衣、永吉美智枝、 <b>瀧田浩平</b>	2023.7
2	小児看護技術演習テキスト 子どもの権利擁護の実践をめざして 学習ノート（学生用）	共著	あり	へるす出版、193頁	監修：濱中喜代、編集：高橋衣 執筆：高橋衣、永吉美智枝、 <b>瀧田浩平</b>	2023.7
(2) 論文						
	論文の名称	単・共	査読	IF対象誌	雑誌名、巻（号）、開始-終了ページ	著者、編者名
1	網膜芽細胞腫の患児における幼児期からの義眼のセルフケアの実態と獲得過程	共著	あり		日本小児血液・がん学会雑誌, 60(1), 34-41	永吉美智枝, 東樹京子, 高橋衣, <b>瀧田浩平</b> , 秋山政晴, 柳澤隆昭
2	入院中の「子どものセルフケアを補完する親のケア能力を測定する尺度」の開発	共著	あり		日本小児看護学会誌, 32, 177-184	長谷美智子, 櫻井育穂, 辻本健, <b>瀧田浩平</b> , 添田啓子
3	小児医療施設の看護過程にセルフケア理論を取り入れた教育介入の質的な効果検証	共著	あり		日本小児看護学会誌, 32, 150-158	望月浩江, 添田啓子, 田村佳士枝, 櫻井育穂, 辻本健, <b>瀧田浩平</b> , 平田美佳, 近藤美和子, 中田尚子
(3) 学会発表						
	学会発表の演題	単・共		学会名、開催都市	発表者（発表者は○印）	発表等年月
1	乳幼児期に網膜芽細胞腫を発症した患児へ親が疾患の理解を促す方法と難しさ	共同		第65回日本小児血液がん学会、札幌	○永吉美智枝, 東樹京子, 高橋衣, <b>瀧田浩平</b> , 秋山政晴, 柳澤隆昭, 田村宏美, 佐藤三由紀, 安藤あゆみ	2023.10
2	UNDERSTANDING HOW CHILDREN WITH RETINOBLASTOMA PERCEIVE THEIR AFFECTED EYES AND VISION: A QUALITATIVE STUDY OF PARENTS' PERSPECTIVES	共同		55th CONGRESS OF THE INTERNATIONAL SOCIETY OF PAEDIATRIC ONCOLOGY (SIOP2023) OTTAWA, CANADA	○Michie Nagayoshi, Kyoko Toju, Kinu Takahashi, <b>Kohei Takita</b> , Masaharu Akiyama, Takaaki Yanagisawa, Hiromi Tamura, Miyuki Sato, Ayumi Ando	2023.10
3	SUPPORTING CHILDREN WITH RETINOBLASTOMA: PARENTAL APPROACH TO PROMOTE UNDERSTANDING OF AFFECTED EYES AND VISIBILITY, AND ITS IMPACT ON PARENTAL PSYCHOLOGY	共同		55th CONGRESS OF THE INTERNATIONAL SOCIETY OF PAEDIATRIC ONCOLOGY (SIOP2023) OTTAWA, CANADA	○Michie Nagayoshi, Kyoko Toju, Kinu Takahashi, <b>Kohei Takita</b> , Masaharu Akiyama, Takaaki Yanagisawa, Hiromi Tamura, Miyuki Sato, Ayumi Ando	2023.10
(4) その他						
	名称	単・共		発表場所等	発表者（発表者は○印）	発表等年月
1	該当なし					

2. 競争的資金等の研究				
	競争的資金等の名称	研究名	研究代表者・研究分担者の別	研究期間
1	文部科学省・日本学術振興会科学研究費補助金（基盤研究C）	看護師を対象とした子どもの権利擁護実践を高める教育プログラム（中級編）の開発	研究分担者	2021～2024年度
3. 教育業績				
(1) 講義				
	講義の名称	科目責任者	コマ数	概要（教育内容・方法等において工夫した点）
1	子どもの保健		1	「子どもの救急処置および蘇生法の特徴と実際、AED等の機器の実際」について講義を行った。演習ではロールプレイを行い技術を実践のイメージに繋がるよう工夫した。
2	小児看護学Ⅱ		1	「障がいをもつ子どもと家族の看護」について講義を行った。ゲストスピーカーとの講義内容を調整し、相互の講義を活用できるよう工夫した。また講義内容に関してレポートを課して学習を深める工夫をした。
(2) 演習				
	演習の名称	科目責任者	コマ数	概要（教育内容・方法等において工夫した点）
1	小児看護学Ⅳ		10	技術演習と事例を関連させて考えさせることで単なる技術の学習ではなく看護のとして学ぶことが出来るよう工夫した。
2	子どもと家族のヘルスプロモーション		8	インタビューした内容が、ヘルスプロモーションの学びとして高められるようグループワークでファシリテートした。
3	子どもの保健		6	子どものイメージをなるべく具体的に学べるようDVDなどの視聴覚教材を使用し工夫した。
4	小児看護学Ⅲ		14	PBLでの学びとして、学生主体に疑問をもち気づきを促し、お互いが学びあえるようグループワークでファシリテートした。
5	小児看護Ⅰ		7	グループワークのなかで学生の気づきを促し、学びを共有できるようファシリテートした。
(3) 実習				
	実習の名称	科目責任者	学外実習：期間 学内実習：コマ数	概要（教育内容・方法等において工夫した点）
1	小児看護学実習		2023.10～2023.12	病棟での受け持ち実習にて学生の学びが促されるよう、スタッフとの調整や看護場面での気づきに意味付けやケアの振り返りを行った。計画した内容を安全に実践し看護展開できるように実践前の思考の整理や注意点の確認、実践後のリフレクションにてサポートを行った。
2	総合実習		2023.7～2023.8	病棟での受け持ち実習を安全に再開するために事前の実習計画を綿密に練り実施にあたった。実習では根拠ある看護を計画し実践できるよう事前のゼミ学習や実習中の振り返り、カンファレンスを計画的に実施した。学生の目標を学生と共に段階に分けて評価振り返りすることで、自身の看護や学びを評価修正する機会を多く設けるようした。
3	IPW実習		2023.10～2023.10	対象者や施設ファシリテーターとのやり取りから学生が対象を包括的な理解へとつながるよう、グループワークでは学生の専門性を活かし自身の気づきを促すファシリテートをした。
(4) 論文指導				
	対象	期間	主指導・副指導の別及び指導人数	
1	卒業論文	2023.4～2024.1	主指導 2名	副指導 1名
(5) その他				
	名称	期間	概要（教育内容・方法等において工夫した点）	
1	該当なし			

4. 社会貢献活動			
(1) 講演会、研修会、公開講座等の講師			
	講演会、研修会、公開講座等の名称	主催	講演、研修、公開講座等のテーマ
1	該当なし		
(2) 国、自治体、学術団体等における委員等			
	国、自治体、学術団体等の名称	委員等の名称	任期
1	該当なし		
(3) ジャーナリズムでの発言			
	メディア等の名称	内容	年月
1	該当なし		
(4) その他			
	項目	相手方等	内容
1	地域貢献活動	県立小児医療センター	看護師への研究指導
			2023.4～2024.3
5. 学内運営			
	項目	内容	期間
1	学科等における委員会等	卒業研究運営	2023.4～2024.3
2	学生支援	4年生担任	2023.4～2024.3
6. 受賞（研究、教育、社会貢献活動に関するもの）			
	受賞名	主催	受賞年月
1	該当なし		
7. 特許の取得			
	特許名	特許番号	登録年月
1	該当なし		
8. 特記事項			
1	該当なし		